

きのこ

県オリジナルきのこ品種を活用する

— きのこ産地へ新アイテムの提供、地域へ新商品と新事業の提案 —

研究の目的

- ❑ きのこ品種の栽培技術開発
多収量で高品質となる栽培条件の解明
産地実証による生産技術の実用化
- ❑ 品種特性の維持
健全で安定した品質の種菌を配布する技術の確立
凍結保管等による長期保存技術の確立

研究方法

- ❑ 開発品種と品種候補の栽培技術確立



センター開発
エノキタケ品種「黄雲」

品種特性

全体が黄色く、傘が大きい

改善点：柄の色、日持ち



ナメコ品種候補

品種特性

傘が大きく、柄が太い

改善点：栽培期間短縮



ヒラタケ品種候補

品種特性

多収量、栽培期間が短い

目標：生産拡大

- ❑ 品種特性の維持
健全種菌の配布

病原菌感染チェック手法確立

種菌生産工程管理基準の策定
(美味しまね認証対応)

長期保存技術

凍結保管の有効性確認

↓
解凍条件の検討



−80℃フリーザー

研究の現場移転

- ❑ きのこ品種を提供して生産拡大と多品目生産による経営の安定化を進める
- ❑ 地域特産品開発、有利販売を支援する

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当グループ：きのこ・特用林産科

研究担当者：富川康之・口脇信人

問い合わせ先：0854-76-3815

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名：県開発きのこ品種の原種菌維持・管理（研究期間：H30～R4）

研究の背景・目的

- ・本県の菌床シタケ生産量は増加傾向にあり、それに伴い廃菌床の発生量も増加しています。
- ・廃菌床は一般に農地の土壌改良材に利用されていますが、農地面積に限られる市街地では処分方法が課題です。
- ・廃菌床の新規用途として、コンテナ苗用の培土や、畜舎で使用される敷料への利用技術を開発し、地域の実情に応じた処分方法を選択ができるようにすることを目的とします。

研究方法

課題①：廃菌床の含水率が高い（50%以上）

課題②：廃菌床がブロック状であること

1) 乾燥試験

乾燥場所：ハウス、雨の当たらない日陰
調査内容：重量、含水率、乾燥日数

2) 粉碎試験

調査内容：粒子の重量比率、粉碎作業時間

3) 用途検討

育苗培土；苗成長量、敷料：水分吸収量



乾燥の様子

粉碎機

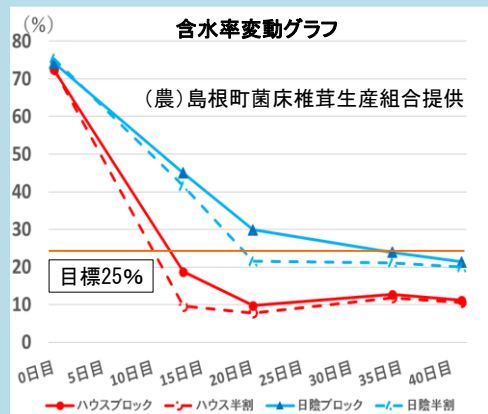
コンテナ苗

研究状況

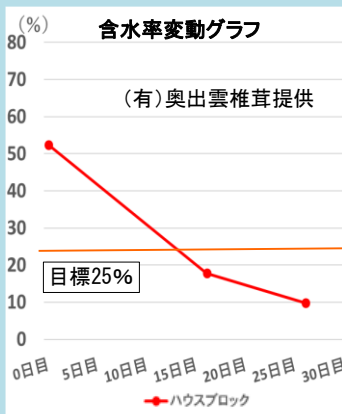
菌床2.5kg(直方体)

菌床1.3kg(円筒形)

粒子の重量比率



乾燥効率：日当たり>形状、ブロック≒半割



2.5kg=1.3kg=13日(夏季)

項目	チップ無	チップ入
ふるい12mm：残	19.5	3.3
ふるい5mm：残	26.0	24.8
ふるい5mm：通過	54.5	71.9
含水率	11.9%	13.8%



チップ無：菌床原材料はおが粉のみ

チップ有：菌床原材料はおが粉とチップ

研究成果の活用・今後の研究計画

- ・美味しまね認証基準である「廃菌床の適切な処理」や「地域内循環への貢献」の取組みになります。
- ・廃菌床の保管や運搬を容易にするための乾燥・粉碎システムを検討します。
- ・コンテナ苗用の培土として適正な条件（混合割合・施肥量）について研究を行います。
- ・JAしまね出雲地区本部では、椎茸部門と畜産部門の連携を検討されており、一緒に研究を進めます。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当グループ：きのこ・特用林産科

研究担当者：口脇 信人、富川 康之

問い合わせ先：0854-76-3815

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名：得苗率を大幅にアップさせる病気に強く低価格なコンテナ用培土の開発（研究期間：R4～R6）

特用樹

里山保全のための多様な樹種供給

研究の背景・目的

材利用の他に複数の用途が知られている樹種や、スギ・ヒノキ林内で生産可能な有用植物を利用して森林経営の多様化を進める。研究では対象植物の育苗技術と、萌芽再生力を考慮した伐出方法を検討する。

研究方法

①育苗技術開発と母樹育成

栽培実績が少ない有用植物の育苗条件を検討する。また、これらの成育特性を確認するために植栽試験を行い、将来的には母樹林に育成する。

②資源量早期回復技術の確立と生産工程調査

伐採方法の違いによる萌芽更新状況を調査し、生産計画を立てるための資料を得る。さらに、萌芽更新による資源量回復を最大にするために伐採時期、受光伐や施肥の効果を検討する。また、伐出条件と用途開発に資するため、作業工程を確立する。

研究の内容

①育苗技術開発と母樹育成

1) 育苗技術の確立

実生法：種子保存試験、発芽率調査
挿し木法：発根率調査、鉢上げ試験
適当な育苗ポット調査

2) 植栽試験と母樹林造成

活着率調査、成育条件解明

有用植物

コシアブラ、クロモジ、サカキなど



コシアブラの実生



育苗ポット別コシアブラ成長の比較

②資源量早期回復技術の確立と生産工程調査

1) 資源量回復技術

萌芽再生促進条件の解明

2) 伐出方法の検討

生産性調査、チップ化技術確立



クロモジの萌芽



チップパー・シュレッダー

研究成果の活用・今後の研究計画

様々な早生樹を対象とした「育苗」と「生産」の手引きを作成し、森林所有者・林業事業者等に情報提供する。造林樹種の選択肢を拡大して森林経営の安定化を図る。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当グループ：きのこ・特用林産科

研究担当者：口脇信人・富川康之

問い合わせ先：0854-76-3815

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名：里山保全のための多様な樹種供給（研究期間：R4～R6）